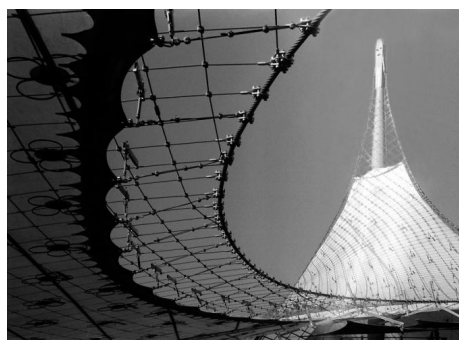
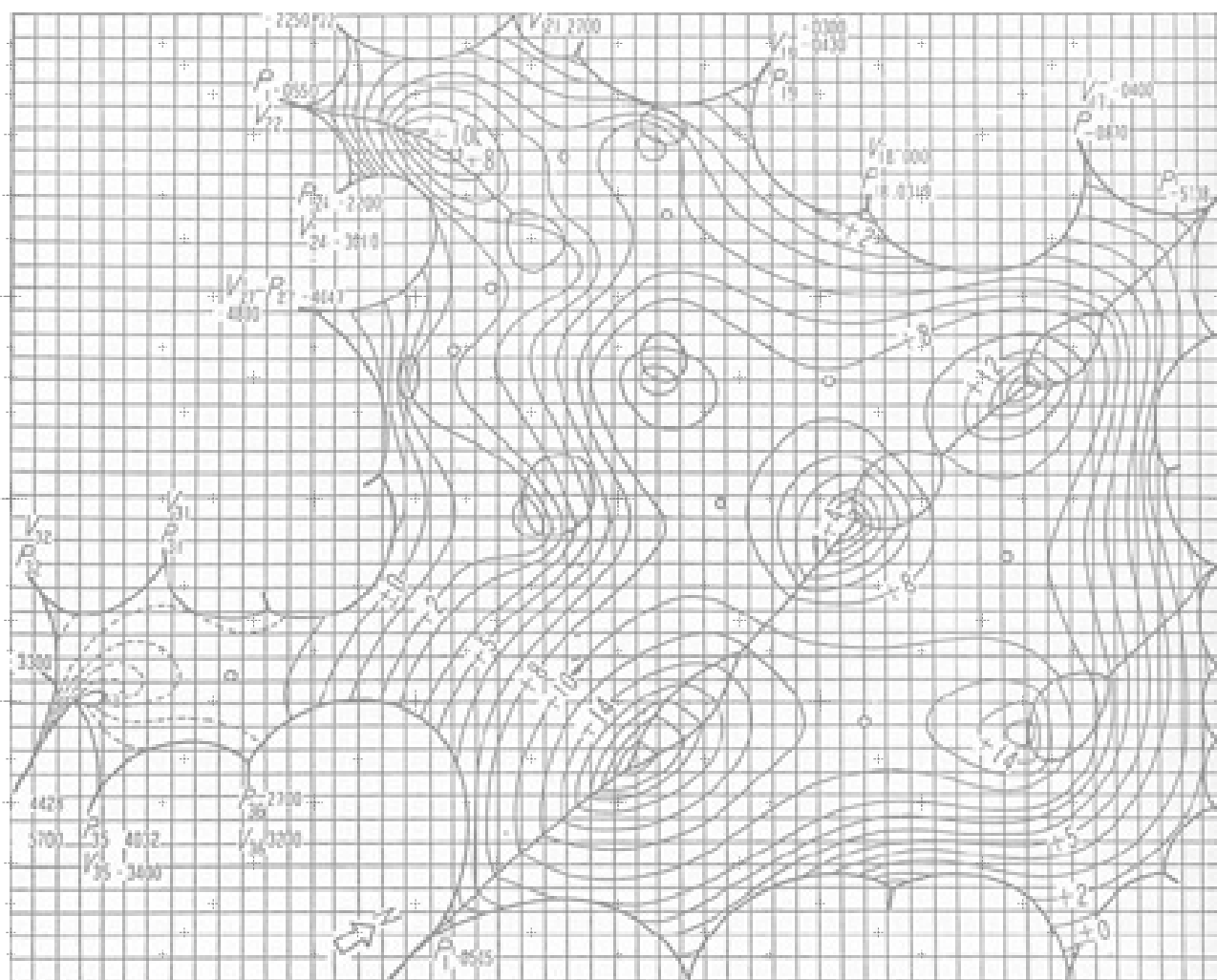


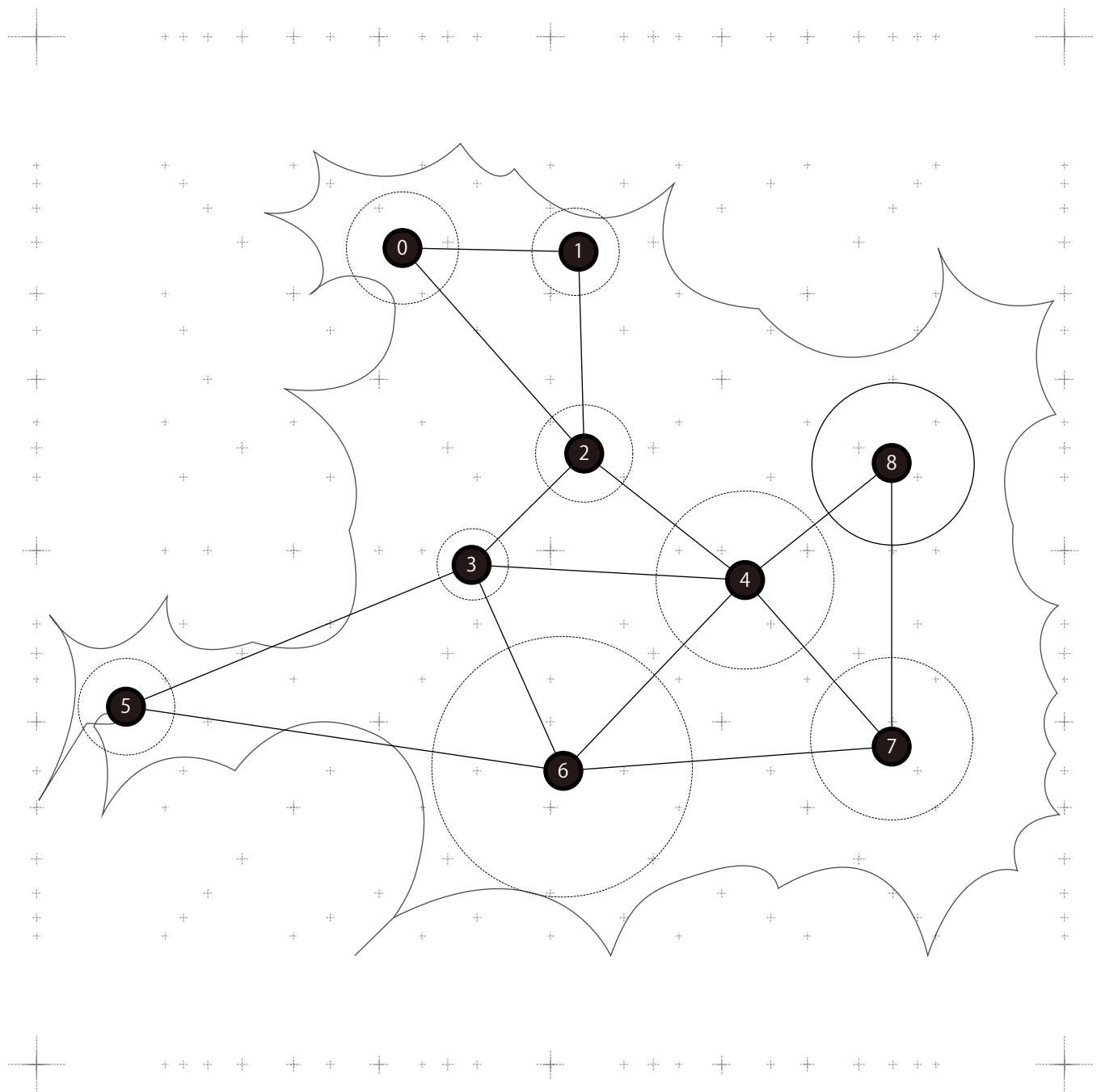


THE MONTREAL PAVILION

1967年のモントリオール国際博覧会にて、ケーブルと膜による構造を用いて設計されたドイツ館
cable net structure of the German exhibition pavilion
World Exposition Montreal 1967

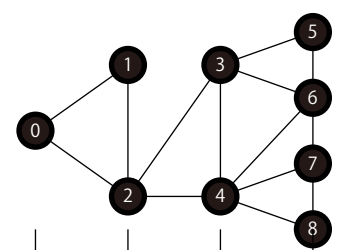


屋根伏図
roof plan non-scale



屋根空間が造る空間のノードとエッジ
nodes and edges generated by the shape of the roof

node: 9
edge: 14
depth(max): 4
ring: 6

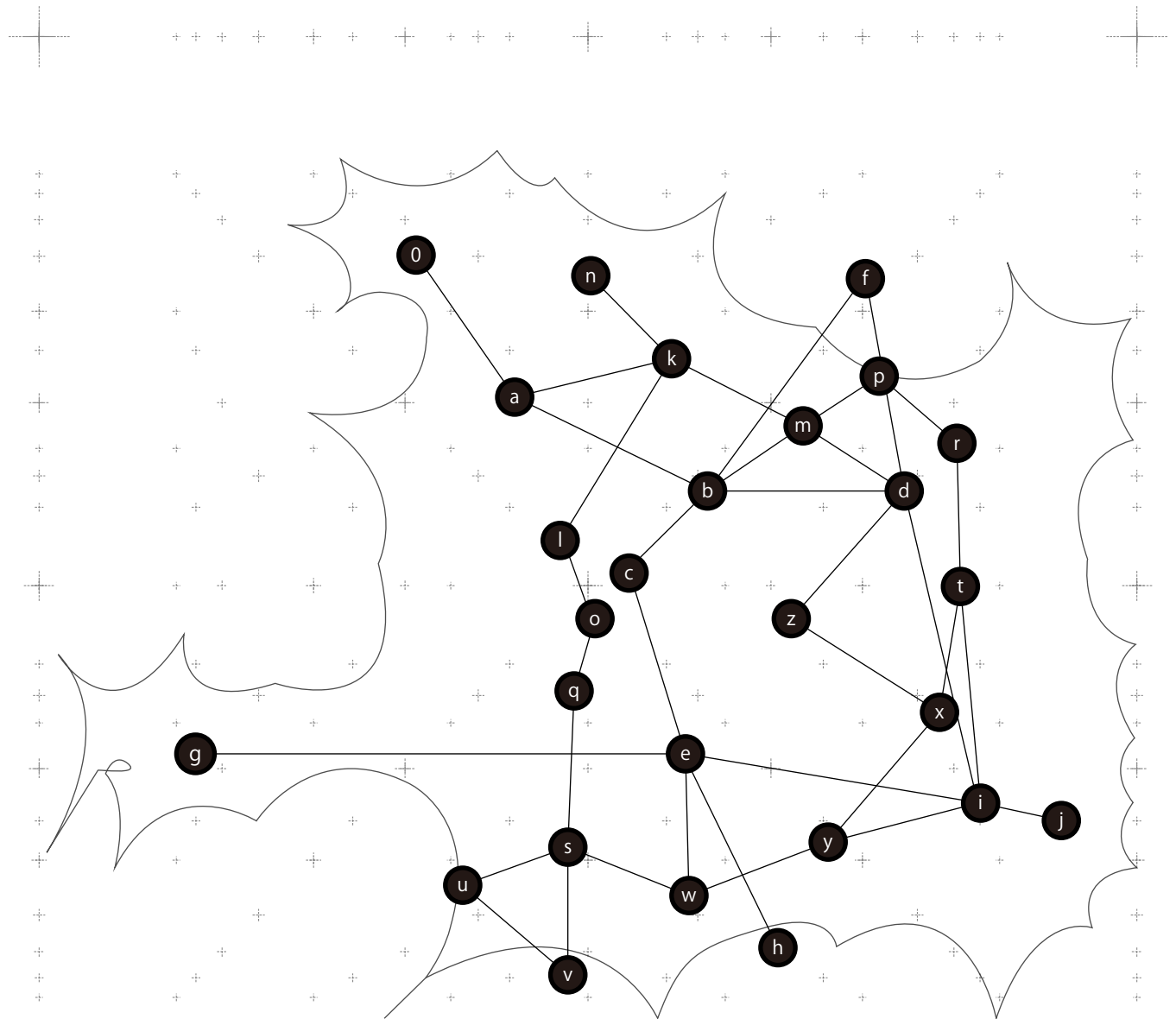


depth.

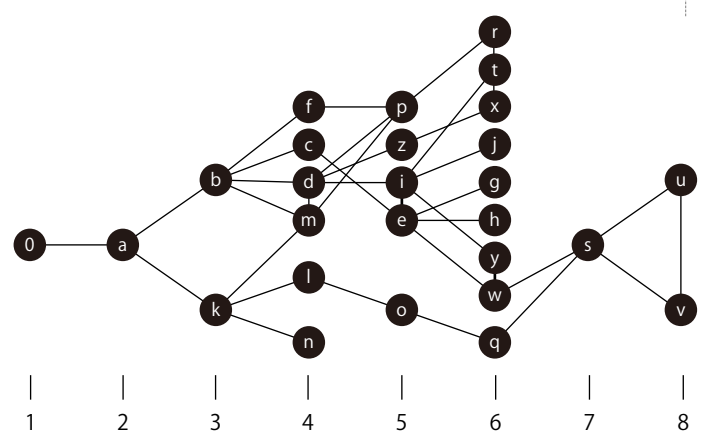
1 2 3 4



平面図 縮尺不明
Plan non-scale



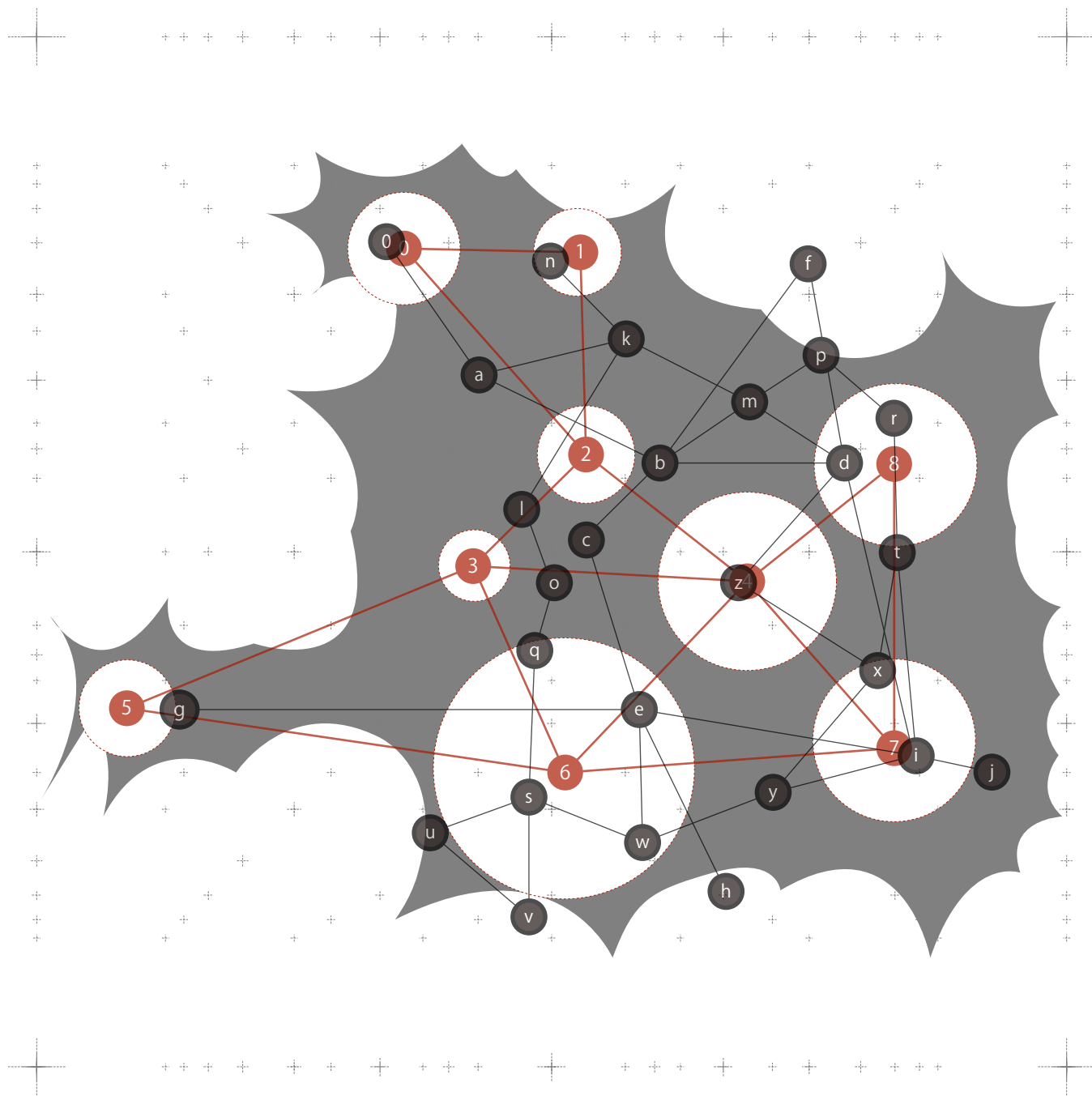
平面構成によるノードとエッジ
nodes and edges generated by planing

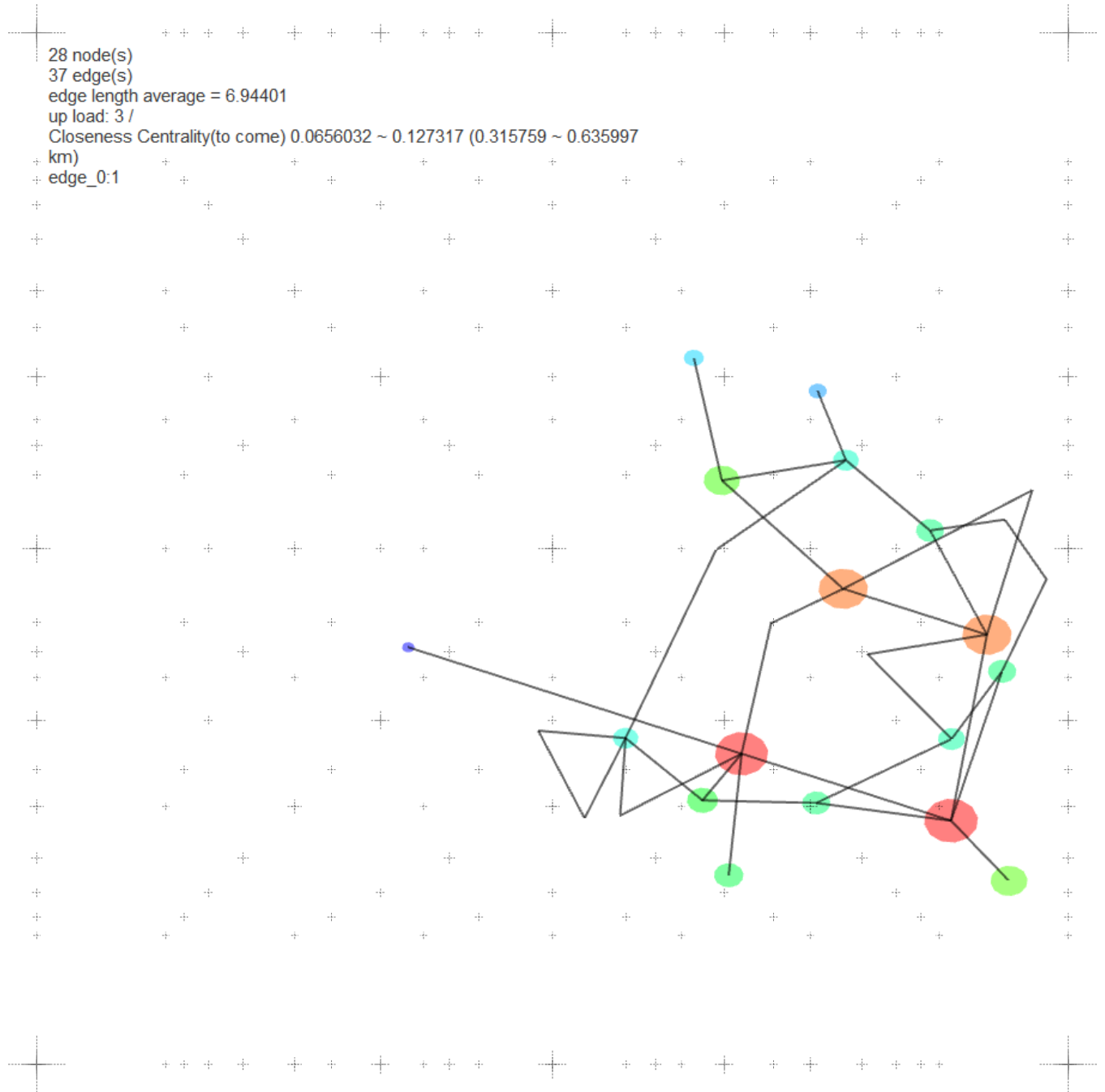


vertex: 27
edge: 35
depth(max): 8
ring: 5

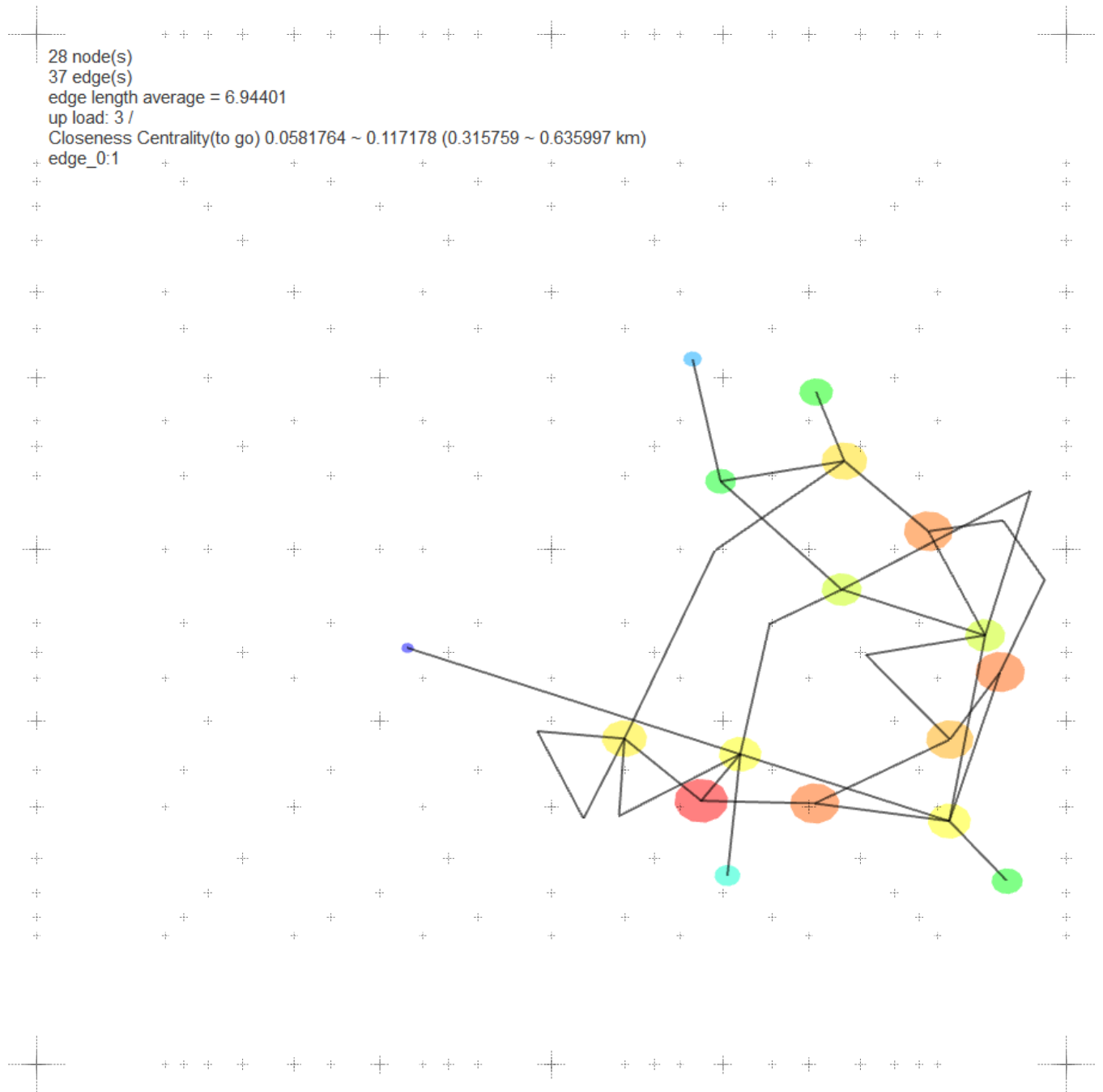
depth.

1 2 3 4 5 6 7 8

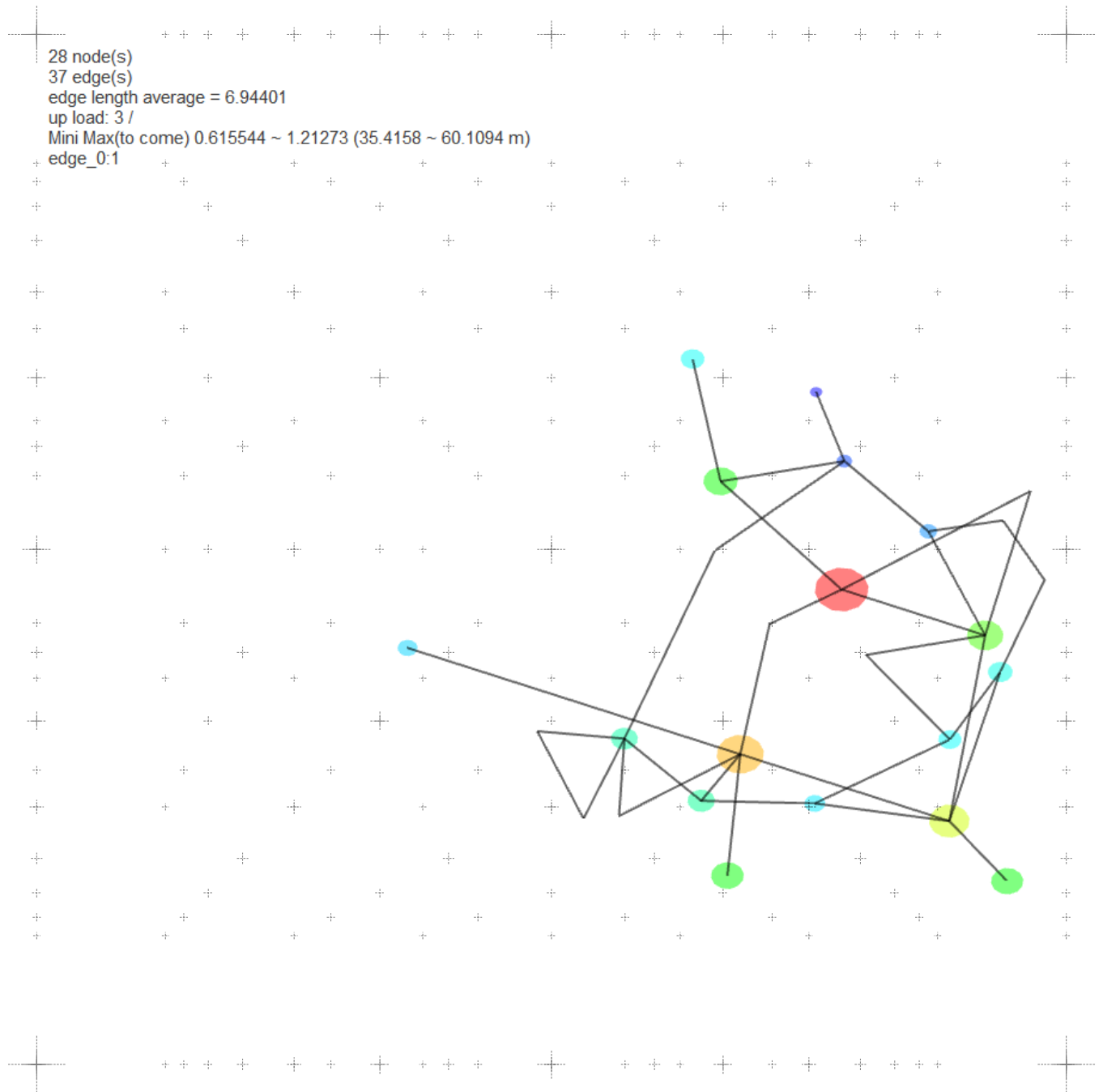




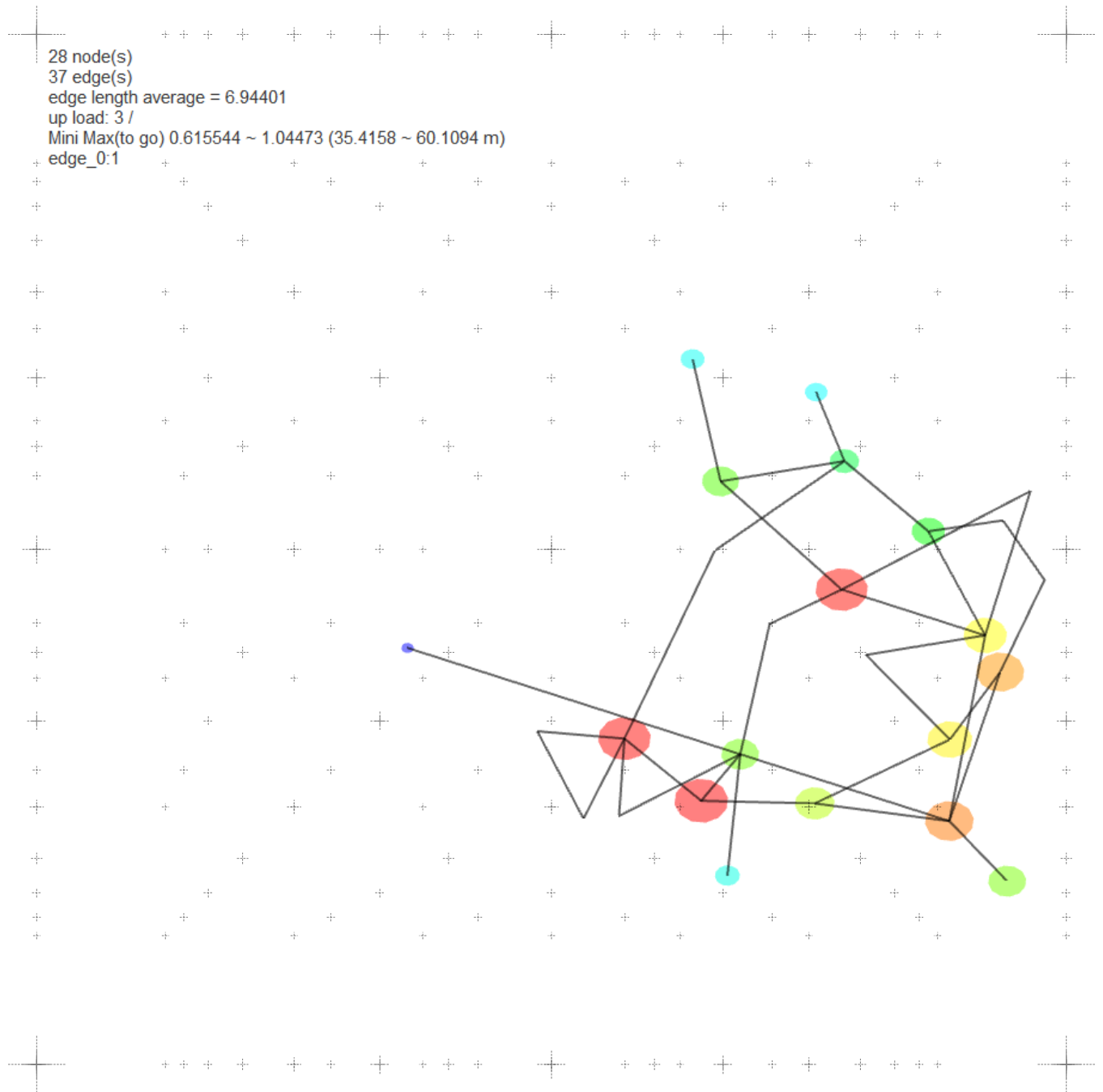
最も高く、大きい屋根の下の空間が、各ノードからアクセスしやすくなっていることがわかる。



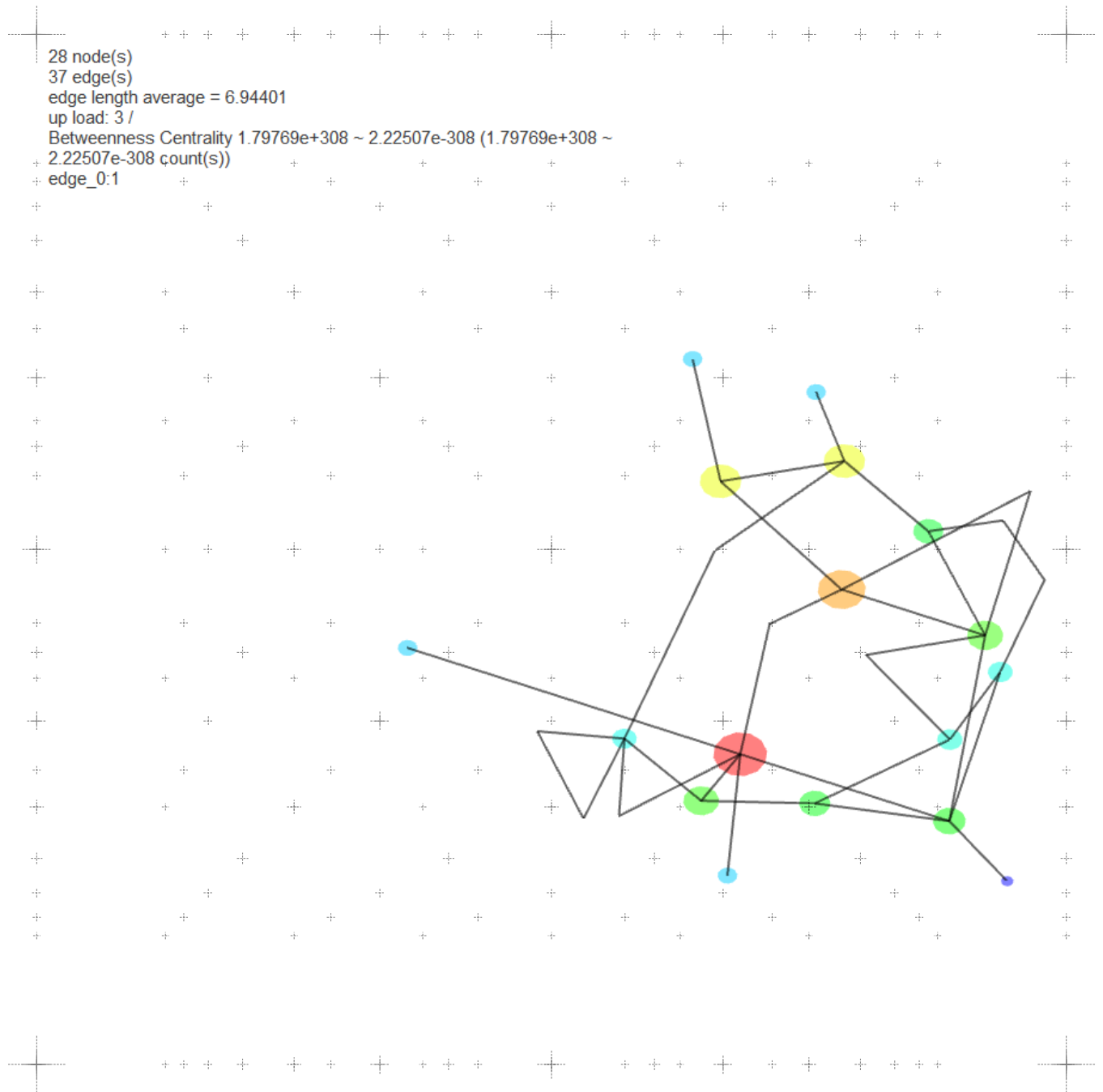
任意の点からそれぞれの点への行きやすさという観点では、主に2階部分が有利になっている。



どの点からもそれほど遠くないノードを示している？



どの点へ行く時にもそれほど遠くないノードを示している？



媒介度が高いのは、大きいテント構造の下の展示場。